

お問合せ先
OBARA GROUP株式会社
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10
TEL. 046-271-2122

適切に選別された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用
して造ります。



www.obara-g.com

OBARA-G REPORT

第60期 報告書

2017年10月1日………2018年9月30日

証券コード 6877

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2018年9月期における事業の概況等をご報告致します。

当期における世界経済は、アジア地域を始めとする新興国の景気拡大や、米国や欧州地域における回復基調の持続から、全体として緩やかな成長で推移しました。

我が国経済につきましては、設備投資や工業生産の増加が見られ、個人消費が持ち直しの動きを示すなど、緩やかな景気回復が続きました。

そのような外部環境の下、溶接機器関連事業が、自動車メーカーの堅調な生産活動や設備投資への対応を継続的に展開し、平面研磨装置関連事業が、需給状況の好転を受けて生産活動や設備投資が活発化したエレクトロニクス関連素材への拡販活動に努めた結果、当社の業績は前期を上回る結果となりました。

なお、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要政策として認識しており、2018年8月に220,000株(自己株式を除く発行済株式総数の1.20%)の自己株式を取得するとともに、当期の配当金につきましては、2018年8月10日に公表の通り、業績が堅調に推移したことなどから、1株当たり期末配当金を当初予想より20円増配の70円とし、年間配当金

を110円とする案を2018年12月21日開催の定時株主総会に付議し、決議致しました。

次期も不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、引き続き成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行うことにより、業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2018年12月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶01	セグメント別事業概況 ▶05	主要経営指標の推移 ▶11	会社情報 ▶16	株主メモ ▶18
	営業の概況 ▶03	トピックス ▶09	連結財務データ ▶13	株式情報 ▶17	



営業の概況

連結業績サマリー

(百万円)

	実績			次期(第61期)の見通し	
	前期(第59期)	当期(第60期)	前期比	期初計画	当期比
売上高	46,536	51,148	9.9%	53,000	3.6%
営業利益	9,017	9,319	3.3%	9,500	1.9%
経常利益	9,888	9,985	1.0%	9,900	△0.9%
親会社株主に 帰属する当期純利益	6,323	8,200	29.7%	7,000	△14.6%
1株当たり配当金	110円(年間)	110円(年間)	—	90円(年間)	△20円

※次期(第61期)の見通しの想定為替レートは、1米ドル=110円を前提としております。

03

当期の連結業績について

当社グループと深く関わる自動車業界では、中国を中心としたアジア地域や米州地域などで、新モデル投入などによる設備投資が行われるとともに、生産活動についても堅調な動きが見られました。一方、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、先端製品を中心とした需給状況の好転を受け、設備投資及び生産活動での活発化の流れが顕著となりました。

当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努め、ローカルニーズに対応した製品投入を進めたことなどにより、当期の業績としては、前期を上回る結果となりました。

次期の見通しについて

当社グループと深く関わる自動車業界では、過熱状況への調整が見込まれるものの堅調な設備投資や生産活動が予想されます。また、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、活発な生産活動とともに、設備投資の緩やかな回復が予想されます。

そのような環境下、当社グループとしましては、業績の向上に鋭意注力すべく、成長市場での販売促進を図るとともに、積極的な設備投資と研究開発を行ってまいります。

なお、当連結業績予想は、1米ドル=110円の為替レートを前提としています。

04

セグメント別事業概況

溶接機器
関連事業

事業紹介

溶接機器関連事業とは

自動車業界を主要マーケットとする高効率な抵抗溶接機器を製造・販売しています。

自動車が出来るまで

●溶接機器関連事業と関わる自動車の製造プロセス

車体溶接

塗装

ぎ装

完成

出荷



車体溶接の設備

OBARA GROUP が提供する溶接機器

自動車ボディは薄板鋼板で構成されるため、抵抗溶接という接合工法が採用されています。

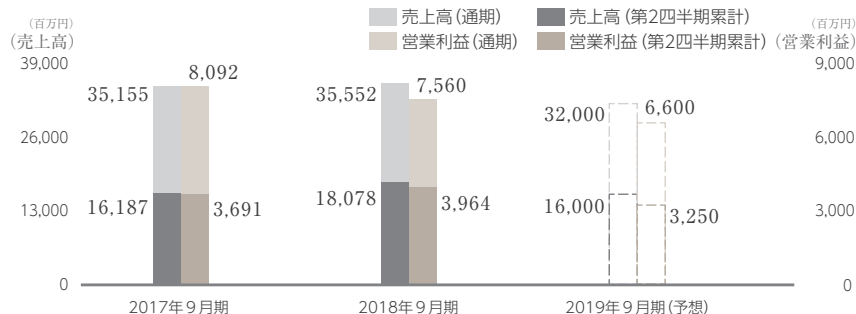
抵抗溶接は、接合ポイントに適切な加圧力と溶接電流を与える必要があります。自動車ボディの組立てには、各自動車モデル固有の立体形状に合わせ、個々の接合ポイントにカスタマイズされた溶接機器が設計・製造されます。

私たちは、国内外の自動車メーカーが行う設備増強やモデルチェンジに伴う設備更新に対し、半世紀に亘って培った経験と最先端の設計・生産技術により、最適な抵抗溶接設備を提案します。日々の生産活動に不可欠な消耗品と合わせ、自動車業界のパフォーマンス要望に応えます。

溶接機器関連事業



溶接ガン



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系・欧米系・アジア系自動車メーカーにおいて、中国を中心としたアジア地域や米州地域などで堅調な設備投資が行われ、世界各地の自動車生産は概ね高水準となりました。このような環境の下、当事業として販売促進を図ったものの、製品構成の変動などを受け、業績は減益推移となりました。

この結果、当事業の売上高は355億52百万円(前期比1.1%増)、同営業利益は75億60百万円(前期比6.6%減)となりました。

売上高構成比

51,148 百万円……2018年9月期 売上高

平面研磨装置関連事業

溶接機器
関連事業

69.5%

セグメント別事業概況

平面研磨
装置
関連事業

事業紹介

平面研磨装置関連事業とは

エレクトロニクス業界を主要マーケットとする精密研磨装置を製造・販売しています。

エレクトロニクス製品が出来るまで

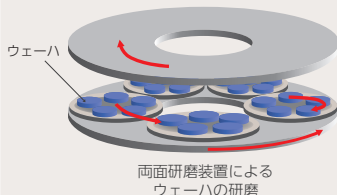
●平面研磨装置関連事業と関わるエレクトロニクス製品の製造プロセス

ウェーハ製造工程
インゴット引き上げ、切断、
ウェーハ研磨

半導体デバイス前工程
成膜、リソグラフィ、
エッチング等

半導体デバイス後工程
ダイシング、ボンディング、
モールドイング等

エレクトロニクス製品組込
完成した半導体デバイス(チップ)の
エレクトロニクス製品への搭載

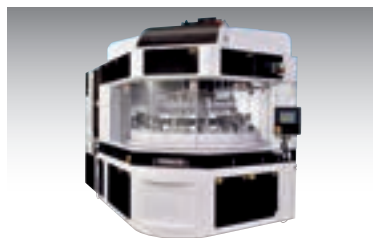


OBARA GROUP が提供する平面研磨装置

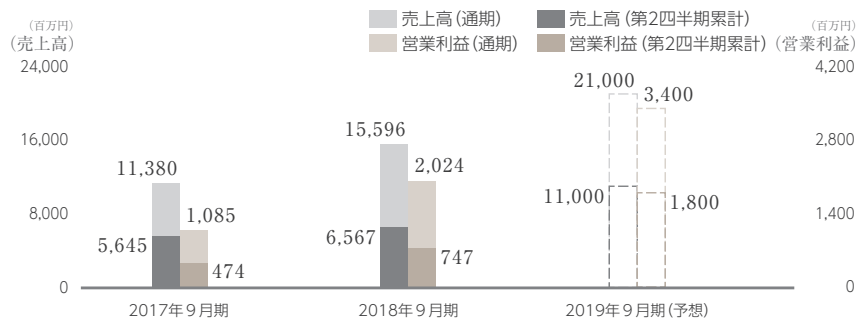
精密加工により製造される先端エレクトロニクス製品は、材料段階で高い面精度を基準平面として要求します。ロジックチップ・メモリーなどの半導体デバイスに用いられるシリコンウェーハ、通信・光デバイス基板、ハードディスク基板など、多様なエレクトロニクス素材の面精度の形成に、ダメージのない微細加工が可能な、遊離砥粒研磨装置が活躍しています。

現代社会を支える各種エレクトロニクス素材の期待水準に、私たちは、ナノオーダー対応の遊離砥粒研磨装置を中心とした精密装置ラインナップで応えます。また、信頼性の高い量産プロセスの確立に必要な、スラリー・研磨パッドなどの消耗副資材も開発・販売しています。

平面研磨装置関連事業



両面研磨装置



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

売上高構成比

51,148 百万円……2018年9月期 売上高

溶接機器
関連事業

平面研磨装置関連事業

30.5%

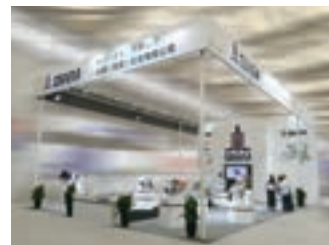
平面研磨装置関連事業につきましては、DRAMやフラッシュメモリーなど主要エレクトロニクス製品の堅調な販売動向を受け、取引先であるエレクトロニクス関連素材において、生産活動に加え、設備投資の回復が顕著となりました。このような環境の下、当事業として設備品及び消耗品の拡販を図ったことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は155億96百万円(前期比37.0%増)、同営業利益は20億24百万円(前期比86.5%増)となりました。

トピックス

溶接機器関連事業／ 中国・自動車製造技術展示会に出展

2018年7月、当社グループは、上海(中国)で開催された、車体から部材・関連装置に亘る自動車製造の総合展示会「AMTS」に出展し、溶接ガン、コントローラー、チップドレッサー・チェンジャーなど、幅広い製品ラインナップを紹介しました。現地市場ニーズに合わせた最新製品群の実機展示に、自動車ボディ製造の技術者を始め、来場された多くの方々から高い関心を集めました。当社グループは、顧客要望を具現化する製品開発を続けることで、抵抗溶接技術に関わる総合ソリューションを提供してまいります。



AMTS 2018

平面研磨装置関連事業／ 米国・工作機械展示会に出展

2018年9月、シカゴ(米国)で開催された工作機械の総合展示会「IMTS」にて、当社グループは、汎用精密研磨装置などを展示し、金属・セラミックス・ガラスなど、多様な加工物に対する最新の取組みを紹介しました。また、当社グループの豊富な装置ラインナップと各種消耗副資材との組み合わせによる、効果的な製造プロセスについてのプレゼンテーションも行い、来場の方々から注目を集めました。当社グループは、顧客ニーズを具現化する次世代装置など、高付加価値製品の開発に注力してまいります。



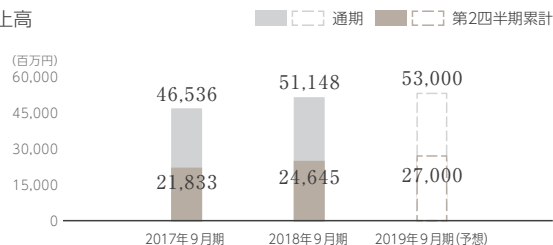
片面研磨装置



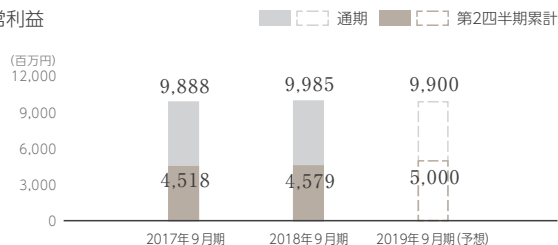
IMTS 2018

主要経営指標の推移

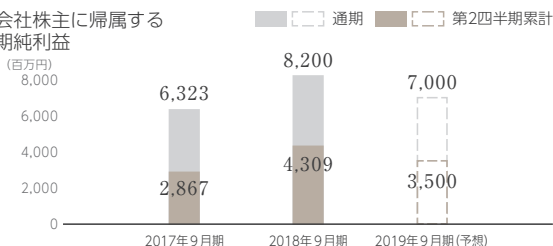
売上高



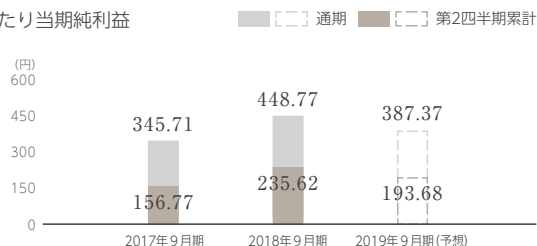
経常利益



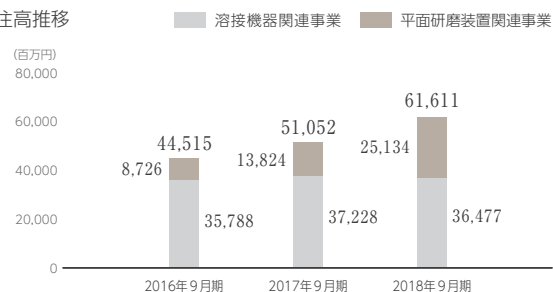
親会社株主に帰属する当期純利益



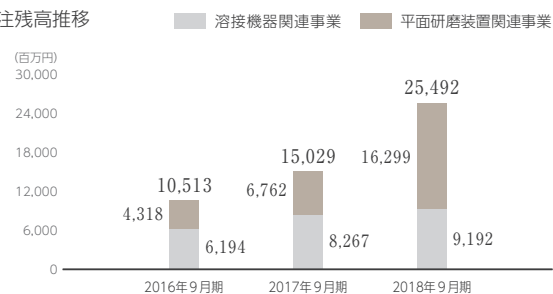
1株当たり当期純利益



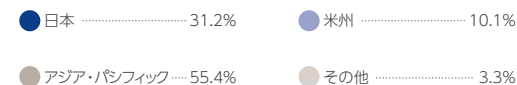
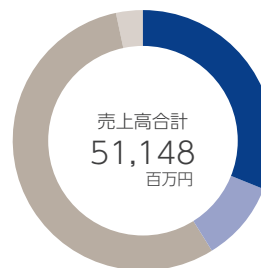
受注高推移



受注残高推移



地域別売上高構成比

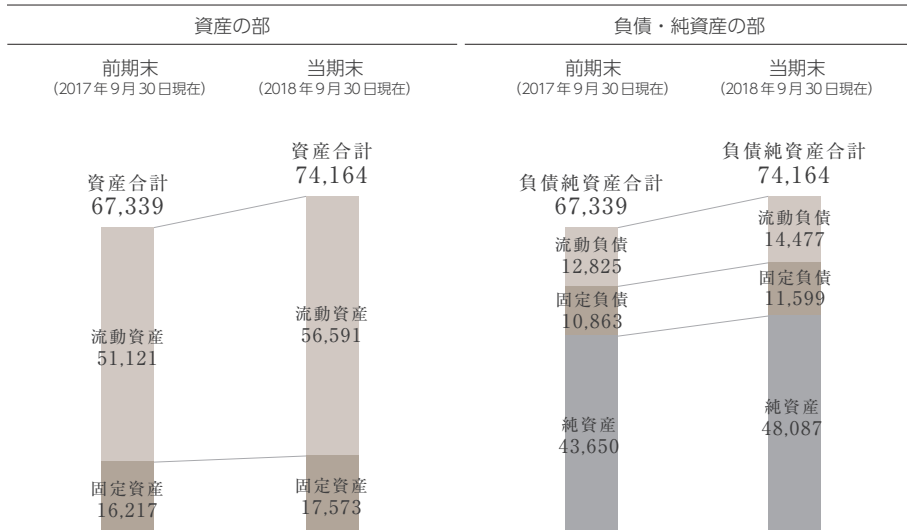


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

連結財務データ

資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



資産負債

point
1

総資産は741億64百万円と、前期末に比べて68億24百万円増加しました。

現金及び預金が25億49百万円、たな卸資産が28億3百万円、有形固定資産が9億円、無形固定資産が5億36百万円増加したことなどによりです。

負債は260億77百万円と、前期末に比べて23億87百万円増加しました。

支払手形及び買掛金が6億58百万円、未払法人税等が3億23百万円、前受金が2億45百万円、その他流動負債が3億57百万円、長期借入金が2億90百万円、繰延税金負債が3億5百万円増加したことなどによりです。

純資産

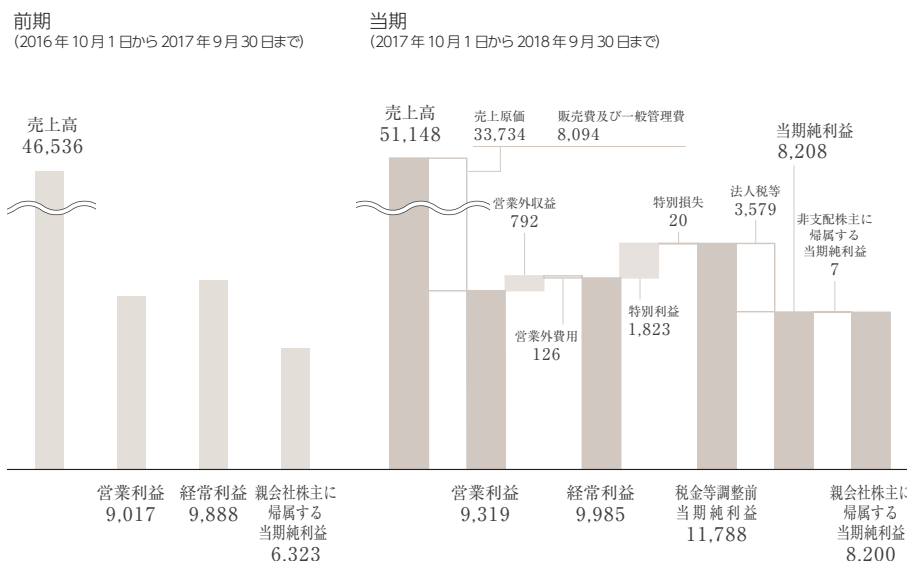
point
2

純資産は480億87百万円と、前期末に比べて44億37百万円増加しました。

自己株式の取得により12億2百万円減少した一方、親会社株主に帰属する当期純利益を82億円計上したことなどにより利益剰余金が60億5百万円増加したことなどによりです。

損益の状況

(単位：百万円)



売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

point
3

連結売上高は、511億48百万円(前期比9.9%増)、営業利益93億19百万円(前期比3.3%増)、経常利益99億85百万円(前期比1.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益18億23百万円が発生したことなどにより、82億円(前期比29.7%増)となりました。

営業外収支

point
4

補助金収入1億49百万円など、営業外収益が7億92百万円となった一方、為替差損59百万円など、営業外費用が1億26百万円となりました。

特別利益

point
5

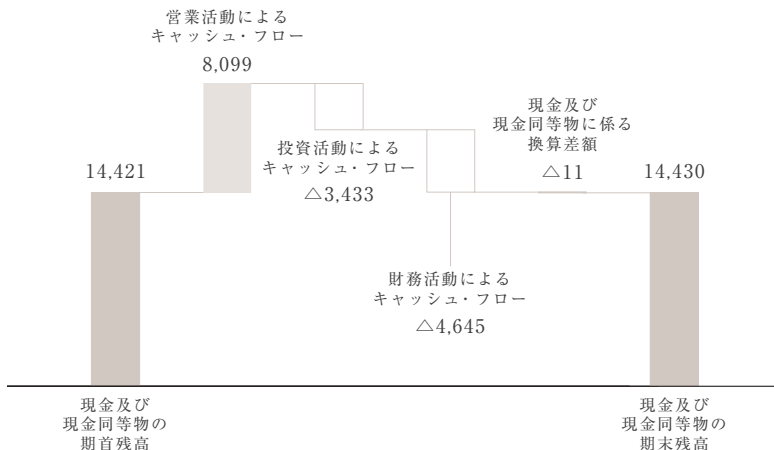
固定資産売却益2億76百万円、移転補償金15億47百万円が発生したことによりです。

連結財務データ

キャッシュ・フローの状況

当期
(2017年10月1日から2018年9月30日まで)

(単位：百万円)



point
6

営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は、80億99百万円の資金増加となりました。

税金等調整前当期純利益が117億88百万円となった一方、たな卸資産の増加額が20億62百万円、法人税等の支払額が29億15百万円発生したことなどによります。

point
7

投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動により支出したキャッシュ・フローは、34億33百万円の資金減少となりました。

定期預金の純増加額が11億57百万円、有形固定資産の取得による支出が10億29百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が17億15百万円発生したことなどによります。

point
8

財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動により支出したキャッシュ・フローは、46億45百万円の資金減少となりました。

短期借入金の純減少額が5億58百万円、配当金の支払額が21億94百万円、自己株式の取得による支出が12億2百万円発生したことなどによります。

15

会社情報

会社概要

(2018年9月30日現在)

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	19億25百万円
従業員数	単体：19名(連結 1,769名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-2111(代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	http://www.obara-g.com/

役員

取締役社長	小原 康嗣
取締役	小林 憲史
取締役	周澤 健
取締役	山下 光久
社外取締役	大西 倫雄*
社外取締役	牧野 宏司*
常勤監査役	谷内 博
社外監査役	須山 正志*
社外監査役	高橋 昌子*

* 証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

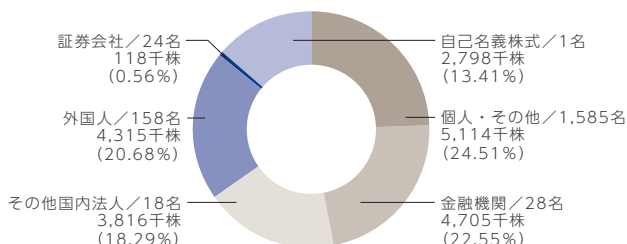
16

株式情報 (2018年9月30日現在)

株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	1,814名

株主分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,703	20.49
小原 康嗣	2,571	14.22
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	1,170	6.47
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	878	4.86
JP MORGAN CHASE BANK 385632	847	4.68
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	802	4.44
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	625	3.46
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505253	452	2.50
株式会社三菱UFJ銀行	369	2.04
小原 範子	304	1.68

- (注) 1. 上記のほか、自己株式2,798千株を保有しております。
 2. 持株比率は、自己株式2,798千株を控除して計算しております。
 3. 小原康嗣の持株数は自身の管理分株数1,084千株を加えて表示しております。

株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各本支店

公告方法

当社公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。
<http://www.obara-g.com/>
 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。

年間IRスケジュール

